



①材料

真中はパウロのサクラ材。長く保管すると硬くなり、太めの材だと子供は削れない。上下はシラカシ。あまり細いとドリルで穴を開けるのに苦勞する。二股の材は面白いのだが、選ぶ子供はほとんどいない。

②完成品

関税品には、側面を削って名前を書いてもいいし、末端に穴を開けて紐を通してもいい。

③用意するもの

- ・鉛筆の材料～乾燥させたもの、細すぎるもの、太すぎるものは駄目。
- ・鉛筆の芯～黒、赤は三菱UNIを使う。青はドイツ製しかない。鉛筆一本に芯を4cm程度使うので、1ケースで40本ほど作れる。芯の径はφ2.0mm。
- ・木工用ボンド
- ・ドリル～ビットはφ2.2mm。





④作り方

- ・鉛筆の材を選ぶ。
- ・端面を直角にして、ドリルで深さ4cm程度の穴を開ける。径は2.2mm。手に怪我をしないように注意する。
- ・左下の写真のように、荒削りをする。
- ・芯にボンドを塗って穴に差し込む。
- ・ボンドが乾燥するまで待つ。
- ・鉛筆をきれいに削る。今の子供たちは鉛筆を削らないので、最後の成形がほとんどの場合いい加減で、ほとんど削れない子供もいる。
- ・必要に応じて、先端の反対側の側面に紐用の穴を開けると良い。